

# 平成 29 年度 学位（修士）請求論文

## 中国における留守児童の抱える心理的な問題とその支援

社会システム研究科地域コミュニティ専攻  
2016M30001 金 波

### 要 旨

#### 1 問題の所在と本研究の目的

2016 年 11 月 9 日、中国民政部（日本の厚生労働省にあたる）は、両親もしくはどちらか一方が都市部に出稼ぎへ行き、農村部に残された 16 歳未満の「留守児童」の総数は 902 万人に達しており、そのうち 9 割以上が中国の中部と西部に暮らしていると発表した。また、全体の 902 万人のうち、祖父母の世話を受けている児童が 805 万人で 89.3%を占め、他の親戚や友人に預けられている児童は 3.3%の 30 万人である。また、両親の一方が出稼ぎに出て、もう一方は児童と共にいるものの、障害などで保護者としての能力を有していないというケースが 3.4%の 31 万人、そして残り 4%の 36 万人の「留守児童」は誰の世話も受けていない状態にあるとした。

この調査では、留守児童は祖父母や親戚に預けられて同居・生活するケースが多いが、面倒を見てくれる人が誰もいない、“孤児”のような留守児童が 36 万人以上いることもわかった。この「孤児」化する留守児童をめぐっては、貴州省で起こった 4 人の子どもの集団自殺事件や、南京市で起こった姉妹餓死事件もあり、社会的関心は高い。また、中国では、毎年約 5 万人の児童が事故や事件で死亡しているが、そのほとんど留守児童であり、性的被害についても、留守児童が絡んだ性的虐待事件・レイプ被害は、2015 年だけでも 340 件起きていたことが報告されている。

また、そのような事件に巻き込まれない場合でも、親子のふれあいが著しく欠ける留守児童は感性の低下や破壊的行動、敵意の増幅がみられ、情緒的に憂鬱や焦燥になりやすく、性格上偏屈で卑屈、自信のない子どもに育つなど、心理的な問題が多くみられるとされている。

本研究では、このような中国留守児童の問題状況を踏まえつつ、とりわけ中国における留守児童の抱える心理的、情緒的な問題に視点を当てて、その理解と援助の課題と方法を検討した。

#### 2 論文の構成

第 1 章では、中国における留守児童の抱える心理的な問題について、これまでの先行研究を紹介しつつ、1 節で親子の愛着関係の問題が及ぼす心理的な影響を、2 節では、監護タイプごとの留守児童の心理健康状況の問題を概観する。さらに、3 節では、留守児童に多く見られる精神疾患（PTSD や解離性障害など）について概観した。

第 2 章では、1 節で、留守児童の心理的健康問題に最も大きく影響すると考えられる愛着の問題を整理し、2 節では愛着のタイプと愛着障害の問題を取り上げた。そして、3 節では、愛着障害の問題との関連が深い解離性障害の問題を取り上げ、愛着障害と解離性障害の問題との関連について、先行研究をもとに考察した。

第3章では、留守児童の抱える愛着障害や解離性障害への治療的援助の問題を考えるために、1節では修復的愛着療法を、2節では環境療法を、そして3節では動物介在療法を紹介し、留守児童への治療的援助に求められる知見について整理した。

終章では、これらの治療技法が中国の留守児童の抱える心理的、情緒的問題に対してどのようなかたちで応用可能かについて、仮説的に整理し、今後の検討課題を提起した。

### 3 まとめと今後の課題

#### 1. 愛着関係の修復の問題

第1章では、多くの中国の留守児童が親子の愛着関係でのつまずきや困難さを抱えていること、そして、この愛着関係でのつまずきや困難さは留守児童の発達全般に否定的な影響を与え、様々な精神医学的な問題につながる危険性があることが様々な調査から明らかにされている。

それだけに、愛着関係でのつまずきや困難さを抱えている事例に対しては、できるだけ早期の段階で介入し、愛着関係の修復をはかることが課題である。

#### 2. 環境療法的なアプローチ

西澤は、環境療法的アプローチがもっとも有効なのは、その性格上、カウンセリングやセラピーといった構造で行なわれるよりも、むしろ、その子どもを取り巻く日常的な環境内で行なわれる場合であるとしている。このように、「生活空間」が内包する空間的治療機能をテコに修正をはかり、子どもの発達を促すという意味で、「環境療法」の有効性は高い。しかし、そのためにも、近年、中国で急激に増加している「留守児童の家」などの中に、留守児童の抱える心理的問題を適切に理解でき、環境療法の理論と実践に詳しいスタッフを配置するなど、環境療法が成立するための条件整備を行っていくことが必要不可欠な課題である。具体的には、日本の児童養護施設のように、最低でも一人の、子どもの心理的な問題と環境療法に精通した心理専門職を配置し、施設内での環境療法的アプローチに取り組んでいくことが重要になってくるであろう。

もちろん、藤岡が児童養護施設で「修復的愛着療法」の日本版を実施していように、「留守児童の家」でも、「修復的愛着療法」の中国版を子どもと職員とのあいだで実施し、環境療法と統合していくことができれば、さらに大きな力を発揮できると考えられる。

#### 3. 動物介在療法の活用の可能性

性的被害や深刻なトラウマ体験した子どもに対する海野らのドッグプログラムは、中国の留守児童のなかでも、とりわけ深刻な心的外傷を体験しているような事例に対しては、その実施を検討していく必要がある。

今後の課題として、留守児童の抱える心理的な問題への支援を進めるに当たって、下記のような研究を進めていく必要があると考えている。

1. 「環境療法的アプローチ」を可能にするための条件整備の課題の明確化
2. 修復的愛着療法の中国版の作成
3. 中国で実施可能な動物介在療法のプログラムの検討